

# 「河川環境実務者研修」開催報告

技術普及部 参事 山本 有二



技術普及部では、河川環境等の水辺整備に関する人材の育成・技術の普及を目的に、研修会・セミナー・シンポジウム等を実施し、技術者の育成に寄与していくことを目指している。

本報告では、その取り組みの一環として実施した「河川環境実務者研修」の開催結果について報告する。

## 1. 開催主旨

河川環境の保全、整備、再生、管理を適切に推進していくには、関係する技術者が、工学から生態学にわたる総合的な知識を習得することが求められる。このため、本研修では河川環境について全般的な分野を網羅できるよう、河川の生態系、河川の特長、計画・管理等、幅広い項目での研修を企画し、河川環境に関する総合的な知識を習得することを目的に開催した。

## 2. 概要

「河川環境実務者研修」は平成16年7月28日～30日の3日間、28日・30日はリバーフロント整備センター会議室で、29日は多摩川の現地にて、31名（コンサルタント・地方自治体関係者）の参加のもと開催された。研修全般を通して、①河川環境の捉え方について、生態系と河川動態の双方の関連性を理解し、それらを河川計画や設計に反映させていくプロセスについて、②行政の先進的な取り組みの紹介、流域・地域連携・社会性等の観点を取り入れた川づくりのあり方について、講義が行われた。

研修のプログラムと概要を下表に示す。

表 河川環境実務者研修プログラムと講義概要

7月28日（水）		7月30日（金）	
講義名/講演者	講義概要	講義名/講演者	講義概要
河川行政における河川環境の取り組みについて 国土交通省河川局河川環境課 河川環境保全調整官 森 吉尚	河川行政における河川環境の取り組みについて、近年の国土交通省における施策について	河川環境の捉え方・保全の考え方 九州大学大学院教授 島谷幸宏	環境と河川計画と題して、河道計画の前提事項・ポイント、検討する際の留意事項について
河川生態学術研究の取り組みと今後の方向について 東京農工大学 名誉教授 小倉紀雄	河川工学と生態学の学際的研究として創設された河川生態学術研究について、その目的、体制、成果、今後の展開について	地域連携について NPO法人全国水環境交流会 代表理事 山道省三	NPOの視点での地域連携について、連携の構造、対象、目的について具体事例を踏まえながら講義
河川と生態系について 社団法人淡水生物研究所 所長 森下郁子	“共生の生態学”というテーマで、民間主導型の環境事業のあり方等について	調査・計画・実施・管理段階 独立行政法人土木研究所 水循環研究グループ長 佐合 純造	川環境を捉える手法やモデル等についての講義
河川動態と河川構造 財団法人河川環境管理財団 河川環境総合研究所長 山本晃一	川の見方として、河川生態系の基盤となる河川地形の形成要因、河川の動態等について	鶴見川流域水マスタープランでの取り組みについて 国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所長 海野修司	鶴見川流域水マスタープランについての概要と課題、今後の方向について
演習：河川の整備と保全の目標策定 国土交通省九州地方整備局 武雄河川事務所長 尾澤卓思	河川整備計画の策定にあたり、治水・利水・環境と時間・空間・社会性を関連付けた計画立案の考え方について演習が行われた。	川の自然再生の動向について 財団法人リバーフロント整備センター 研究第四部長 前田 諭	川の自然再生の動向について、釧路川・多摩川・松浦川等の実施例を踏まえながら講義
7月29日（木）		小論文	
講義名/講演者	講演概要		
現場研修：多摩川 河道特性・生態系の捉え方について 社団法人淡水生物研究所 所長 森下郁子 財団法人河川環境管理財団 河川環境総合研究所長 山本晃一	多摩川上流（60km地点）から二ヶ領宿河原堰（22m地点）までをバスで移動し、上流・中流・下流域における河道特性・生態系の捉え方について、現場での川を見るポイント（視点）について講義		



現場研修の様子（多摩川）

## 3. 研修結果

研修のレポートならびに研修後のアンケート調査から今回の研修では、物理基盤と生態系が相互に関連しながら河川環境を形成しているということについて理解が得られ、河道計画を検討していく上での視点の置き方について認識されたと思われる。ただ、河川動態に関する理解については十分でない面もあり、次年度以降も引き続き、この面でのカリキュラムを検討したいと考えている。

また、本研修では、出席状況ならびに小論文の結果をふまえ、修了書を25名に発行した。

## 4. おわりに

最後に本研修会の実施にあたり、講義をいただいた講師の方々に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。